

アマダイ通信NO.41

(Tile fish network letter)

04年早春

知人・友人各位

立春も過ぎ随分春めいて来ました。小平用水の土手に植えた水仙やヒヤシンス、チュウリップも間もなく咲きそうです。新幹線も混んできて、景気にもようやく明るさが見えてきた感がありますが、読者の皆様は如何お過ごしでしょうか？大腸癌発見からほぼ1年、色艶よく脂ものった🐟は“世界の海”を泳ぎ、白銀の山を滑り、夜毎酒を食らいます。“銀座干し”(🐟の一夜干しの別名)にして分けて上げたいくらいの元気ですが、さてどこまで続くやら。この便りが届く間は元気ということで、41号をお送り致します。

- bは余命2年！例外か？散り際の線香花火か？

2月5日の東大三鷹クラブ第52回定例講演会で寮の先輩の河野信博山楽病院名誉院長(S30年入寮)と、丹波實前ロシア大使(S32年入寮)の講演が始まる前に立ち話。元気そうじゃないか。元気過ぎて困るんです、調子がいいものだからちっとも生活態度が改まらなくて、段々元に戻って、毎晩飲んだくれて。大腸がんはステージ - bだったんだって？えー、リンパ節に三ヶ所転移して。医者は逃げを打つこともあって - bだと余命2年と言うんだよ、データではそうだけど、個人個人は別だから、顔色もいいし大丈夫だよ。元気だから二ヶ月に一回でいいだろうというんで、診察して二か月分抗癌剤もらって朝晩飲んでるんですけど、今のところCT撮っても肝臓にも肺にも転移していないし、腫瘍マーカーも正常値なんです。マーカーは数値より段々低くなって行くのがいいんだよ、余り無理しないで、例外になるように、癌に負けないように元気に頑張るんだよ。

余命2年か。もう1年近くなるから、普通だと後1年だ。何も不都合は感じないけど、この元気は散り際に一瞬ひと際明るく輝く線香花火か。去年の今頃だって週末にはスキーに行き、毎晩楽しく酒飲んで、体調は絶好調だったのに、癌はしっかり大きくなってリンパ節にも転移していたんだ。この転移さえなければ、もっと早くみつければ、大腸を切ってつないでハイ終わり、だったんだ。今だって、この元気な体のどこかで、静かに癌細胞は成長しているかも知れないのに、毎晩飲んだくれて。癌も生活習慣病の一つだというのに生活習慣がちっとも改まらない。そんな🐟を心配して、癌に勝つには免疫力を高めなければ、そのためにはサプリメントのアガリクスを飲んだり、食事療法等の方がいいと色々薦めてくれる人がいる。ありがたいことだが、体調がいいのでなかなか本気で取り組めない。それに食事療法では、本人や連れ合いが殆どそのことだけのために全エネルギーを費やしなればいけないが、仕事も持つ連れ合いに自分の命だけのために、君の24時間をくれと求めることはできない。

せめて 豚肉、牛肉は1日80gまで、 適度な運動、 1日あたり野菜350g以上、イモ類の摂取を心掛ける、 飲酒は2合程度まで、飲酒後下痢をしない程度までとする、 総摂取エネルギーの中で脂肪由来は20%程度に、 BMI(体格指数)は25以下、 精製していない穀類の摂取を心掛ける、 禁煙、無理ならせめて減煙、という大腸癌予防策(「克服できるか生活習慣病」、田上幹樹三楽病院副院長著、丸善ライブラリー)を頭に入れておこう。田上先生によればこれは全ての生活習慣病に当てはまり、「諸悪の根源は肥満」であり、「肥満」がベースになって発症する病気が生活習慣病なのだ。

“ 他人（ヒト）の役に立ちたい！ 症候群 ”

余命1年？ということになって、さてその1年をどう生きるか。刹那的に遊び暮らすか、悲観して自ら命を絶つか、変わりなく淡々と生きていくか、天の声を聞くか？例外的に1年以上の命だとして、そうあることを期待してしまうのだが、その先の人生をどう生きるのか？人それぞれだろうが、起死回生、乾坤一擲、大きく変わる人生航路を頭の中で描くことはできない。それでは神懸りにも、新興宗教の教祖様にもなれない。

病を得て変わるにしてもエネルギーが必要で、青春時代に病も得ずして変わることができたのはエネルギー故か、或いは重篤の“病”そのものだったか。以来、人の役に立ちたいと念じながらゲリラ戦を闘い、ルールを外れて時に脇で眠るしかなかった。人の役に立っているということを確認することでしか、生きていることを実感できない“他人の役に立ちたい”症候群。若き日の混沌の中で罹った“病”は死に至る病なのであろうか。

“人の役に立つ”形は様々であるが、社会の階梯を上り、組織の中で報酬を得て大きな仕事をするのも一つである。仕事をする事で社会に大きく貢献できるのは幸せである。多かれ少なかれ他人の役に立つ、社会に貢献するから仕事も成り立ち、報酬を得て生活もできるのであるが、多くの報酬を得てする仕事为社会貢献として意識されることは少ない。そこにボランティア活動が社会的に尊重される所以がある。無報酬で、或いは少ない報酬でも、社会に貢献する活動が存在し、時に時代を先取りし、次代の形を準備することもあるのである。

顔が広いから不動産業者に登録しておくからね

エリートコースに叛旗を翻すことで、生業と社会貢献が大きく乖離した●の人生行路だが、40の手習いでサラリーマン生活を始め、高橋カーティンウォールで学生時代の人脈を頼りに超高層ビルのコンクリート製外壁パネル、PCカーティンウォールを全国に売り歩く。社員としては四年ほどしか在籍しなかったが、多くの旧友・知人のお力添えを得て京都、名古屋、恵比寿、目黒、品川、JR東海東京の各駅ビル、JR四国、東日本の本社ビル、各地のNTTドコモビル、霞ヶ関の合同庁舎2号館、市ヶ谷の防衛庁庁舎、東大や東北大の病院等、多くの大型ビルの外壁を高橋カーティンウォールで製造施工する。

市場経済では幾らいい物、サービスを作っても、黙っていて売れる訳ではない。売る努力があって相手に認められ、使ってもらえる。キーマンを紹介してもらい、適切な提案を行い、成果を上げ、会社に認められることで行動の自由も広がる。同窓会活動やNGO、NPOのボランティア活動等、意図した訳ではなく好きでやるのだが、生業と社会貢献活動が渾然一体となり、相乗効果を生む。相変わらずゲリラ戦だが生業と社会貢献活動の、ネットワークによる再統合が叶う。

好事魔多し。調子に乗り50歳を期して友人とエコビジネスの起業を企てるが失敗、先ず古巣のカーティンウォールと先輩のいた日本ビクターを顧客に、やむなく建築の営業コンサルタント業で独立。ピンチはチャンス。不況も手伝い、営業強化の求めが強く、建築だけでなく土木の分野にもクライアントが広がり、先端のIT業界から声が掛かることも。時にメーカーだけでなく上流の設計事務所からも応援を求められ、更に上流の日本生命不動産部の阿部山営業部長（S39年入寮）が事務所に姿を現す。“顔が広いからテナント探しを手伝え、業者登録をしておくから”。不動産業の事務所登録もないのに、資料の詰まったCDROMを置いていく。週に一度、新しいテナント情報がメールで送られて来る。

建築情報は土地情報、最上流からシステムチックに！

設計事務所から頼まれ、東京の城南を中心にマンションを供給する中堅デベロッパー、モリモトの森本浩義社長（中大全共闘 ML 派の“同志”）に土地を持込んだり、“ウチにも余っている土地があるよ”と伴襄都市基盤整備公団総裁（S34 年入寮）や渡辺日佐夫東京都港湾局総務部長（現内閣府土地再生本部事務局次長、干場寮委員会の食事委員）に言われ、ヤマト運輸のトラックターミナルにどうかとヤマトの武田善行専務（現ヤマトシステム会長、S35 年入寮）に紹介する。最近も能代高校同期の小野寺研一住友不動産常務に都心の再開発地の情報をつなぐなど、建築情報は土地情報と切り離せない。

そこで、不動産業を開業すれば土地情報と接する機会とビジネスチャンスが増える。最上流の土地情報から入れば設計から建築へとシステムチックに営業でき、建築資材の売り込みも楽になり、仲介手数料も入る。商売下手な●も思い至る。20 年近く前、まだ法律を齧っていた頃、知り合いの不動産屋に頼まれて一週間ほど勉強し、宅地建物取引主任の試験を受けた。司法試験は落ちてばかりなのに、二時間の試験を一時間もかからず解き終え、退出していいと言われる間もなく答案用紙を提出、久しぶりに気分良かったことを思い出す。法律を多少齧っていると楽な試験だ。合格通知も証書も失くしてしまったが、2 万 4 千円払って東京都に登録したから、記録が残っている筈だ。三鷹寮同期の森下尚治東京都建築指導部長に相談に行くと、課長がパソコンから記録を引き出してくれる。

ついでに不動産業の届出用紙も都庁で買い、あらためて 1 万 5 千円払って業界団体の一日講習を受け、宅建主任者証の交付を受ける。事務所の写真も撮り、アシスタントに届出書の書けるところは書いてもらうが、本人記入事項の筆が進まず、二年ほど放ったらかしだ。日生の阿部山先輩も住友不動産の小野寺常務も、不動産業の登録はしなくても手数料はやるよと言うのだが、ちょっと筆を運ぶだけで済む。という訳で近々、不動産業も開業します。不動産のご用命も是非●へ！

紅海に飛び込み、ネグロスで泳ぐ

年末年始はモスクワ経由でカイロに飛び、列車でアレキサンドリアへ。スエズからシナイ半島に渡り、アフリカからアジアへ。世界中から集まった観光客と、赤いシナイ山の、一木一草もない岩だらけの狭い山頂で、押し合いへし合い元日のご来光を仰ぐ。シナイ半島の紅海に面したリゾートにも一泊、シーズンオフの“誰もいない海”で泳ぐ。透き通った白砂の海に栈橋から飛び込み、群れて泳ぐ小魚を驚かす。

一週間ほど東京で仕事をして 13 日（火）から一週間、国際協力銀行（JBIC）の国民参加型 ODA セミナーでフィリピンへ。ルソン島のピナツボ火山で JBIC の借款で作った水道事業、川床をさらい、橋を架け、遊水池を作るなどの災害復旧事業を見学。ネグロス島では ODA での植樹事業、林道事業、学校改修の現場へ。船で渡ったセブ島では海岸の巨大ゴミ捨て場と、住民と係争中の工場用埋立地を見学。各地で事業スタッフや現地住民と交流し意見を交換する。暇を盗み、ネグロスでもシーズンオフの遠浅のビーチで泳ぐ。

ODA で作ったスエズ運河を跨ぐ橋が、直近にトンネルもあるのに紛争の地になぜ攻撃されやすい橋なのかと、新聞で年末批判されていたが、通行量は少ないながらもトンネルとは結構距離がある。戦後の賠償から始まった ODA はフィリピンでも概ね有効に使われ、重要な役割を果たしているようだ。勿論、見学したプロジェクトは成功事例に属し、それにまつわる時の政権と日本のゼネコンや商社との癒着など、問題は山積するのだろうか。

喜捨（バグシーシー）を！

ネグロスの海辺のホテルの野外レストランで昼食を終え、途中寄港した島で夕陽が海に沈む。ようやくセブ島に着くと棧橋の倉庫の陰から子供達が飛び出し、金をくれと手を出す。船中で飲んだサンミゲルの心地よい酔も醒め、倉庫の中を覗くと数人の大人達。エジプトでも観光地では必ず“バグシーシー”と手が伸びて来たが、貧しいネグロスではなかった。セブはマニラに次ぐ第二の都会でフィリピンの古都だ。ネグロスではバナナやマンゴー、パパイヤ、タロイモ等が手近かにふんだんにある。自然豊かな田舎と都会の違いか。

砂糖キビを満載したトラックとすれ違いながらネグロスの狭い林道を登り、電気もない村で交流会が始まる。砂糖キビ刈りの日当45ペソ（1ペソ2円）が植林作業で日当90ペソと倍増し、生活が楽になったと村人。土壌保持力の弱い砂糖キビの焼畑から、保水力も強く短期に金になる果樹の栽培に切り替えるのは、中国の黄土高原で荒地に杏を植える緑の地球ネットワークの世話人として共感を覚える。今食べるための金が必要なのだ。

だが植樹資金はあとわずかという。果実が金になるまで持つか。又、砂糖キビの焼畑に戻り借金だけが残って、日当90ペソの“バブル”の記憶だけで終わらぬか。ここまでのODAを無駄にしないためにも、道路の舗装や更なる植樹等の公共事業や竹などの加工業とそのためのファイナンスが必要か。丸焼きの豚3頭の歓待を受けながら、🐷は考える。

ネグロスの子供達のために！

セブ市の埋立地にできた巨大ゴミ捨て場の脇の溝には真っ黒な廃液が溜まり、異臭が鼻を突く。3百人がビニールやペットボトル、缶、壺等を拾い生計を立てる。順序を逆にして分別収集すればゴミが減り処分場も長く使える。中心部のバランガイ（町内会、基礎自治体）では有価物を分別、記帳し、お金に変えている。更に集めた壺の再生工場を作り、雇用も作れないか。水俣市役所の潮崎さんと水俣ゴミ減量女性連絡会の小里さんがノーハウを披露し、水俣エコタウンで操業する再生工場の進出の橋渡しをすることに。

ピナツポ火山の噴火で米軍はクラーク基地を放棄したが、かつての噴火の大量の火山灰でできた広大な平地ゆえの空軍基地だった。災害の教訓を風化させてはならない。島原市職員の杉本さんが雲仙普賢岳災害の経験とその後の取り組みを伝え、協力することに。火口湖の水を抜かないと再び土石流が起き大きな被害が出る。火口湖や温泉、灰に埋まった教会、火山博物館などで観光振興と雇用の創出を図れる。専門家からアドバイスが飛ぶ。

ネグロスの小学校ではODAで校舎の改修が続く傍らで授業を見学、父母と懇談する。自分の息子は外国のボランティアの資金で大学まで行けたが、経済的な事情で入学しても卒業できない子も多い。仕事が不足している。手仕事や小さな商売をするのに資金が欲しい。セブと違い物乞いもないネグロスだが、都市化が進んでいないだけ貧富の差が少なく、果実や野菜が直ぐ手に入るので飢えはしないが、貧しさは変わらない。ODAの受け皿を作り、そこを通じてのマイクロファイナンス（小口金融）で仕事を作り出せないか。

フィリピンへもいづれと思っていた所に、国際協力銀行の国民参加型ODAセミナーの告知を見つけ、NPO法人緑の地球ネットワークの世話人として応募、審査の上、参加を許される。3万円でフィリピンへ一週間行ける！しかも一般のツアーで行けない所へ！という気持ちが半分だったが、結構ハードスケジュールで、あちこち見学させられ住民とも交流、大変勉強になる。併せて、戦後日本の自分達の子供時代とも重なり、貧しくても明るく無邪気で、よく勉強するネグロスの子供達のために何かできないだろうか考える。

日中水フォーラム2004北京

ピナツポの麓のアンヘレスではODAによる水道事業が順調に発展、水質のいい水を住民に安価に提供、借款の返済も始まる。この枠組みは中国でも応用できる。沿海の産業基盤の整備に対するODAはもはや不要だが、内陸部の農村地帯への援助は必要だ。中国自身による租税・社会福祉制度の整備や公共事業、民間投資による沿海から貧しい内陸への所得の再分配、産業と雇用の振興が先ず必要だが、内陸の10億人を豊かにするためには、3億の沿海の人間の一人当たりGDPをUPさせるための、3倍以上の努力が必要である。

緑の地球ネットワークの高見事務局長によると、中国には駄目な人間が日本の十倍いるが、できる人間も十倍いてその中にはとんでもなくできる者もいるという。そのできる人間をかき集めて知恵を出させても、内陸中国の嵩上げ、格差解消は難事である。駒場の中国語クラスの同期で三菱商事中国室長（現上海駐在）の宮内雄史君によると、中国共産党は全体の嵩上げを諦め、教育の機会均等の徹底をその不満のガス抜きにしていると言う。年間6百万人の受験生から3百万人の大学生を選抜、2百万人は経済的な理由で就学困難であるが、奨学制度などあらゆる手段を使い大学に入れるという。そして、均しく就学の機会があるのに、チャンスをもとにできない者は貧しいままで仕方ないと。

その内陸中国で最も深刻な問題が水問題だ。勿論揚子江以南の“ウェットチャイナ”でも水質はどうしようもない。重慶、武漢、上海と同じ揚子江の水を巨大都市の人間と工場が腹一杯飲んででは大した処理もせず垂れ流す。北京など北半分の“ドライチャイナ”は量が圧倒的に不足。中でも内陸の水不足は決定的。最低限の飲み水すらなく、水の不足は食べる物の不足も意味する。中国でもようやく水問題の深刻さが全国的に認識されるようになり、4月20～22日まで「日中水フォーラム2004北京」が開催されます。無視することのできない隣人、圧倒的な存在感で眼前にいる中国のアキレス腱、水問題に日本の技術と資金を提供する、困っている隣人に手を貸す、いいビジネス機会でもあります。

中国・日本両国の「水」関連業務の協力と「水文化」をテーマとするフォーラムですが、主催は中華全国青年連合会（何代か前の第一書記が胡錦濤です）、国家水利省、建設省、環境保護総局の後援です。日本側事務局はNGO日中新世紀協会（03-5623-2772、fax03-5623-2773、E-mail:info@jcnca.org、URL:http://www.jcnca.org）後援が駐中国日本大使館、第3回世界水フォーラム事務局、国際協力機構（JICA）、日中友好協会等です。

「延安の娘」再度首都圏で上映！

本通信38号で紹介した「延安の娘」ですが、“文化大革命”下の延安で訳ありの子として生まれた育ちの悪い子、日本に連れて来たら物珍しさに全国を徘徊していましたが、ようやく東京に帰って来ました。垢抜けしません中々泣かせる娘です。見てやって下さい。それに“もう一つの中国”がよくわかる映画です。下の世代に中抜きされる生き方下手の“文革世代”にもエールを！

3月5日（金）6日（土）池袋・新文芸座 TEL 03-3971-9422
11:35/15:55/20:15 の3回興行で、「アジアの映画の輝き」と題して「チベットの女」との併映です。 <http://www.shin-bungeiza.com>.

DVDなどで自主上映会を始めます。各地の上映サークル、市民団体、学校、職場等々で上映会を主催していただければと思います。上映料は12万円～の予定です。関心ある方は池谷薫監督の「蓮ユニバース」へ。 03-5478-6077 HP <http://www.en-an.com>

捨てればゴミ、回収すれば資源(2)・D ネット勉強会より

産業廃棄物処理と最終処分場

総産業廃棄物量は四億トンですがそのうち破砕など中間処理するのが三億トン、焼却処理が二億トン、さらに汚泥や廃アルカリなど処理が難しいものに的を絞ると、日本全国の発生量は七百万トンです。同和鉱業は一割弱のシェアです。一般的な家電物や産業廃棄物を焼却処理する中で、鉱山技術、製錬技術が生かされます。具体的な拠点としては岡山クリンワークス、柵原鉱山の跡地です。二番目に同和クリンテックス、秋田県の花岡鉱山跡地の利用です。日本パールは油を運んだ後洗ったローリーの油混じりの水を処理する千葉の他社の事業に、ダイオキシン問題を機に投資しました。興和製鋼というのは新日鉄とやっている会社です。国内で鉱石を掘っていた時、硫化鉄 FES_2 を鉄と硫黄に分けようと始めた北九州市内の工場です。船で秋田県の鉱山から持ってきて硫酸を回収し残った鉄を製鉄原料にしますが、まだ亜鉛や金銀などを含みます。それを回収する塩化揮発法という方法が今でもリサイクルや廃棄物処理に使えます。廃棄物で特に問題なのは塩素で炉を傷めることですが、興和製鋼の場合塩化揮発法に使うから平気であると同時に積極的に利用します。困っているものが全て集まり、廃棄物の最終リゾートの状態です。同和クリンテックスですが、廃棄物を入れて燃やすのに第一次、二次そして三次燃焼室で完全に燃やします。あとは排ガス処理です。こういう廃棄物処理施設は、燃やす設備よりその後の排ガス処理の方にお金がかかります。千度以上の高温で完全に分解し、出てきた排ガスを8百度から一気に80度まで落とし、水で洗います。ダイオキシンは3百度で再構成されますが、その温度を一気に通り越しダイオキシンフリーになります。残った水ですが、昔鉱山施設では大量の廃水が出て、ちゃんと処理してから公共用水に流さないと駄目でしたから巨大な水処理設備を持っているので、そのまま使います。同じように廃液処理には油水分離法という方法もあります。また冷却機に使われるフロンは、熱分解します。熱分解でのフロン処理は、当時秋田県経由の環境庁のモデル事業で依頼試験研究として続けてきました。ロータリーキルン、廃棄物処理炉を使ったフロンの破壊の環境省の指針は、この同和鉱業の試験結果がベースとなっています。

最終処分場は枯渇傾向にあります。大館市に総容量二百万平米の管理型処理場があり、露天掘りの有効利用です。通常ゴムシートをひきますが、粘土層が厚いのでひいていません。ゴムシートは破れれば水がもれて終わりですが、粘土層は破れず浸透性が低いので安定します。小坂町にも総容量270万平米の処分場を新設中です。新設は難しいのですが、百年も昔から地元との信頼関係があり許可を得ました。最終処分場を作ってもそれだけで商売はしません、自社で中間処理をかけた素性のわかったものしか入れません。花岡工場の廃水や廃棄物もおおむね環境庁の基準に添うものしか出ません。地盤沈下も起こりません。収集運搬は同和鉱業100%出資のテクノクリーンという会社を拠点にやっています。


土壌浄化と汚水処理

次に同和鉱業の土壌浄化ですが、アメリカでは土壌浄化ビジネスは急激に伸びている分野です。以前から手掛けてましたが日本でも法律ができました。我々は調査モニタリングから処理まで一括でできるのが特徴です。対象物の広さも特徴です。重金属は得意分野ですが、洗浄に使う有機系溶剤にも対応できます。油にも対応できます。また掘り出さずに処理することや、掘削するけど工場内で処理する現地内処理、現地外に持ち出す現地外処理もできます。ゆっくりで良い方も処理を急ぐ方にも対応できます。

土壌汚染対策ですが、スクリーニングから詳細調査、対策モニタリングから一貫してできます。具体的には資源探査の技術を汚染調査に活用します。処理を前提とした調査で、概況調査は資料からします。どこで何をしていたか資料でみ、次に水質や表土ガス探査等を経て仮説を設定します。地下水の流れはこうだからこう拡散しているとシュミレーションし、最後にボーリング探査をして土壌対策を提案します。実際の処理は重金属の汚染なら土壌洗浄法を使います。花岡鉱山では月五万トンの鉱石を粉末にしたプラントがあり、そこで土壌洗浄します。カドミ汚染の除去はまさに鉱山技術で製錬所にもって行きます。有機溶剤の場合は土壌に鉄粉を少し混ぜ鉄粉の触媒作用で分解します。技術はポピュラーですが、鉄粉を磁性材料として生産してきた歴史があります。電気メーカーと表面加工用の厳しい要求に应运ってきたので、非常に高い精度の自社製鉄粉で有機化合物を分解します。鉄粉混合パイル法では、トリクロならトリクロエチレンと塩素に分解します。水の流れを考えて地中に溝を掘り鉄粉をおくと、水の通過と共に拡散し汚染が除去されます。汚染源に工場が立っているが、外に拡散する地下水をどうにかしたい時によく使われます。熱処理法は油や重金属汚染、有機化合物など複合的汚染には熱をかけるのがオールマイティーなので、掘りあげた土壌を場外で熱処理するものです。バイオレメディエーションでは油を食べる微生物に肥料を与えて油汚染を浄化します。封じこめは解決になりません。洗浄法や熱処理、現地処理などそれぞれに応じて選択できます。

我々は鉱山を百数十年やって様々な処理法を行って参りました。北九州のエコタウンは経済産業省の認定を受けましたが、秋田県でもエコタウンの承認を受け、家電リサイクルや自動車シュレッダーダスト施設は補助を受けて作りました。同和鉱業のリサイクルネットは、鉱山製錬の技術、設備を転用していることに特色があります。環境部門のトップは、廃棄物事業は信用が大事で、保安と遵法が大事と申しております。そしてよい利益への執着心、ある程度適正な利潤を目指さないと廃棄物の処理は不法投棄に繋がります。

3・2 能代山本フォーラム2 1 再開第9回講演会

かって故郷能代山本の貧しさからの解放を！と社会運動に走ったですが、戦い敗れた後も故郷のために何か役に立ちたい！と能代高校同級生の飯坂誠悦君等、故郷の仲間と力を合わせ情報発信のために能代山本フォーラム2 1を結成、講演会を開催して参りました。諸般の事情でしばらく休んでおりましたが、昨春の統一地方選で飯坂君が能代市議に当選、準備が整いましたので再開致します。故郷の皆様のご協力をお願い致します。

今回のテーマは「捨てればゴミ、回収すれば資源」ということで、講師の選考は同和鉱業の吉川廣和社長(S37年東大三鷹寮入寮)にお願いしています。不法投棄、廃液垂れ流し、倒産、公金による処理という最悪の展開となった「能代産廃」問題により、能代にとってはデリケートなテーマですが、能代港の利活用、産業振興のためには避けて通れません。吉川社長は小坂地区への荷揚げ港として能代港を是非利用したいと言っています。廃棄物も最先端の技術できちんと処理すれば、資源として再利用できます。そこから又、新しい展開も考えられると思います。廃棄物処理、資源回収の最先端の情報を提供する中で能代港の利活用と能代山本の町興しを考えたいと思います。

日 時 3月26日(金) PM3:00~(開場 2:30) 懇親会 PM5:00~ 場 所 平安閣
会 費 講演会無料 懇親会 5千円
連絡先 飯坂誠悦(/fax 0185-54-8953)

映画作りうらおもて・・・東大三鷹クラブ第53回定例懇談会

この春の大阪での懇談会には、元東映プロデューサー、松平 乗道 大阪芸大講師(1954年入寮)を招いて「映画づくり」について話してもらいます。

彼がそのギョロリとした眼玉と坊主頭を東寮2室に現したのは、ほぼ半世紀前、1954年の春深まる頃でした。最初、そのいかめしい名前と、ごつい風貌から、比叡山あたりの寺の跡取り息子かと早とちりした同室(東寮1・2室)の12人も彼の諧謔に富んだ語り口と悠揚迫らぬ人柄に忽ち魅き込まれ、文字通り寝食を共にする間柄になりました。当時からプロデューサーの才の片鱗を見せていた彼は、55年秋の開寮5周年記念寮祭の演芸会に、「寿一富士三鷹祭(ことぶきいちふじみたかまつり)」なる時代物喜劇の企画・脚本・演出を引き受け、同室の俄役者達(女形も含む)の迷演技も手伝って最優秀賞を獲得しました。

58年春、文学部国史学科を卒業し、東映に入社、京都太秦撮影所に腰を据えた彼は、時代物を中心に映画作りに専念し、日本映画の黄金期から凋落期を経て再生期に至る期間を一貫して多くのシリーズ物の企画・製作に関わりました。2000年、東映を退社する前後から後進の育成に取り組み、現在、大阪芸術大学でプロデューサー論を講じ、シナリオ作法を指導しております。40年を超える映画作りの現場での体験を織り混ぜて、興味深い話を聞けるものと期待しております。(文責：荒木 健一・1954年入寮)

日時 2004年3月17日(水) 18時30分～

場所 大阪弥生会館(大阪市北区芝田2 4 53 電話 06-6373-1841、大阪駅北口徒歩5分)

会費 5000円(夕食・飲物付き)

申込 平賀俊行 Fax 03-5256-0458 電話 03-5256-0455 (株)国際研修サービス

干場革治 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182 (有)ティエフネットワーク

Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

社長封筒が足りません！バックナンバーはホームページで！

例年年賀状用に特別の封筒を作るので、今回は2千3百枚用意。が、「社長封筒が足りません！」とアシスタント。慌てて百枚追加発注。アバウトな●の性格のせいだが、4,5百枚から始まったのに、随分増えたものだ。メールにして下さいという方もいますので、これを機会にメールがいいという方はアドレスをご連絡下さい。こんなものをメールで送って読んでもらえるか、心配ですが。

バックナンバーをとという物好きがいるかわかりませんが、36～40号をホームページ(<http://www.tilefish.co.jp>)に載せておきます。

ボランティア活動にご協力を！

郵送には切手が必要ということで、41号用にも田舎の郵便局長の兄から80円切手を2千5百枚、20万円分送ってもらう。商売下手な●の懐を心配して郵送料をカンパしようとして申し出てくれる人もいるのですが、実力派の応援団(勝手にぶら下がっているだけ?)のお陰でどうにかやっていますので、お気持ちだけいただいて、その分●が応援しているボランティア活動にご協力いただければと思います。今回はタイの奥地チェンライの農村で、家庭の事情で学校へ行けない子供を預かって学校へ通わせる就学支援施設、バーンサンラックへのカンパのお願いと、緑の地球ネットワークの春の植樹ツアーへの参加をご案内させていただきます。一緒に応援していただければ望外の幸せです。再見！



バンサーラック応援支隊結成！隊員求む！

昨春アマダイも現地に出かけ通信で報告しましたが、京都のマンションを売り払ってタイに行った大阪の幼稚園の先生藤井由美さんが始めた、学校に行けない子供達の就学支援施設「バーン・サーンラック（愛を編む家）」も、8ヶ月を経過しました。6人の子供達は皆元気なようです。女ならではの行動なのかも知れませんが、多くの方がここで暮らす子どもたちに想いを寄せ、日本からも資金カンパの応援をして下さるようお願い致します。

呼掛人 渡辺高峯（JR 東海副社長、前回もカンパしてくれました）

高見邦雄（緑の地球ネットワーク事務局長、ツアーに藤井さんも参加）🐟

振込先 郵便振替口座番号 00130-7-409212 口座名称バンサンラック応援支隊



うちの「長男坊」しんちゃん（後列真ん中、左が藤井）のお話です。日本で生まれ、5歳の時に母親が強制送還になり、タイにやってきました。育った環境のせいもあり、かなりわがままな子でした。自分のやりたいことしかしない、自分だけが得したい、小さい子どもをいじめる。そんな行動が目につきました。その度に話し合ったり、時にどなりつけたり、色々努力してきました。7月に日本を訪問する

ことになり、父親との久しぶりの対面がうまくいかずいぶん心配したのですが、1週間後おみやげでパンパンに膨らんだカバンを持って、笑顔一杯戻ってきました。父親は別れた後もしんちゃんのことを思い続け、今回の対面では涙を流して喜んでくれたということです。しんちゃんは父親と一緒に買物に行き、父親と2人でホテルに泊まり、「昔のように」（父親の言葉）手をつないで眠ったそうです。

タイに戻ってからも、父親は電話をしてきたり、しんちゃんのために服や本などを送ってくれたそうです。しんちゃんが日本で受け取った一番のプレゼント。それは父親の愛でした。最近のしんちゃんは、ずいぶん落ち着いてきています。時にはわがままが出ますが、家の仕事を手伝ったり、優しく下の子の面倒を見たりできるようになりました。表情が柔らかく、明るく笑うようになりました。母親の状態もよくなり、「来年になったらお母さんと暮らしたい。家から学校に行く」と、楽しそうに話をしてくれます。

問題を抱えた多くの子どもたちがいます。誰もがしんちゃんのようにうまくいくわけではないでしょうが、自分が愛されているという実感が何より大切です。愛する親からこのように愛を受けることが一番なのですが、それが叶わない子どもたちにこそ、何らかの形で自分が愛されている実感を持たせたいと思っています。（藤井さんの便りから）

2004 春の黄土高原ワーキングツアー

イラク戦争、SARS と揺れ動いた昨年、大同へのワーキングツアーはその多くが中止となりました。その間も、大同の人たちは木を植え、育てつづけています。采涼山ではマツが順調に伸び、呉城郷のアンズも豊かに実りました。新しい試み、汚水処理も動きはじめました。

春のツアーは例年、靈丘県がメインです。まだ季節が早く、植物が動き出す前で実感しづらいかもかもしれませんが、靈丘自然植物園も劇的に変化しています。お楽しみに！

日程：3月24日（水）～31日（水）

スケジュール案（変更になる場合があります）

| | | |
|----------|---|--------|
| 3月24日（水） | 午後、関西 / 成田空港出発。関西 CA152 便 16:00、成田 CA926 便 14:55 発利用予定（集合は2時間前）。夕刻、北京着。北京空港で合流。夜行列車で大同へ | 車中泊 |
| 25日（木） | 三嶺村、懸空寺をへて靈丘県へ | 平型関賓館泊 |
| 26日（金） | 靈丘自然植物園で作業 | 〃 |
| 27日（土） | 小学校付属果樹園で作業 | ホームステイ |
| 28日（日） | 大同県采涼山見学。“カササギの森”で作業。大同市へ | 大同賓館泊 |
| 29日（月） | 雲崗の石窟、万人坑見学。環境林センターで活動。歓送会。夜行列車で北京へ | 車中泊 |
| 30日（火） | 早朝、北京着。終日、北京観光（自由行動可） | 北京泊 |
| 31日（水） | 朝、北京空港出発。午後帰着（関西 CA151 便 08:30 発 14:20 着、成田 CA925 便 09:40 発 13:55 着） | |

費用：一般 = 16万円、学生 = 15万円（国際航空運賃、中国国内での交通費 / 食費 / 宿泊費、GEN 年会費ふくむ） 中国国際航空利用 関西 / 成田空港発着（GEN スタッフは関西発着便のみ同行）

定員：30人

問合せ・申込み：航空便を確保するため、**即刻**、まず GEN 事務所までご相談ください。お断りする場合があります。

特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク（GEN）

〒552-0012 大阪市港区市岡 1-4-24-501

TEL. 06-6576-6181 FAX. 06-6576-6182

e-mail : gentree@vc.kcom.ne.jp

ホームページ <http://member.nifty.ne.jp/gentree/>

